



平成時代の位置づけ

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事長)

の戦争やその後の災害によって失われた命への鎮魂と、残された国民の苦難に寄り添うことで、象徴天皇が存在する意味を自らの行動によって示されて来たことにつながるものと言えるでしょう。

▼平成の時代が終わろうとしています。天皇陛下自身が強い希望を示されたことで、生前退位が実現し、改元と新天皇の即位が円滑に行われようとしています。生前退位へのこだわりは、平成の始まりが昭和天皇のご病氣と崩御に対する様々な自粛が長期化することで国民生活に深刻な混乱と経済の沈滞をもたらしたことを平成の天皇は深く憂慮されていたからではないでしょうか。それは、昭和時代

▼明治以前の天皇は、権威の象徴であっても権力の中枢ではありませんでした。明治維新によって誕生した薩長を中心とする軍閥政権は、天皇の権威を自らの政権のために利用しただけでなく、軍隊を統率する権力者として統帥権を付与することで、それを実際に動かす権力を手に入れました。大日本帝国憲法は形式的には天皇が定めた欽定憲法であり、天皇の軍隊において天皇の赤子として命を捧げることを命じたのが教育勅語でした。こうし

た大日本帝国の構造がその後の軍部の膨張と暴走によって帝国を破滅に導いたのです。

▼平成に先立つ昭和の時代は、軍部の膨張によって戦争と破綻に転がり落ちた20年間と復興と高度経済成長によって経済大国に上り詰めた43年間に分かれます。連合国軍の占領下で制定された日本国憲法は天皇を国民統合の象徴として位置付ける一方で、国家権力の源泉が国民の意思に拠るものであるとする国民主権の考え方で貫かれています。戦後43年間の発展は、まさしくこの新憲法体制によって導かれたものでした。

▼平成の時代は戦後日本の経済発展が最後はバブルの破裂によって終焉したその後の30年間です。そしてそれは、東西冷戦の終結とグ

ローバル化の時代でもありました。安全保障を全面的に米国の軍隊に依存し、経済的にも世界最大の市場である米国に依存していればよかった時代は終わったのに、その新たな設計図を明確に描くことができませんでした。

▼平成の日本に課せられたのは、グローバル化が進行する世界において、日本の新たな発展の基盤をどう再構築することでした。世界に開かれた国として、世界の発展とともに歩むためには、日本の社会をどうのように見直さなければならぬか。しかし、主権者である国民が自らの責任において、新しい世界に通用する社会に日本を作り変えていくしかありません。平成はそうした次の時代へ移っていくための過渡期だったので。